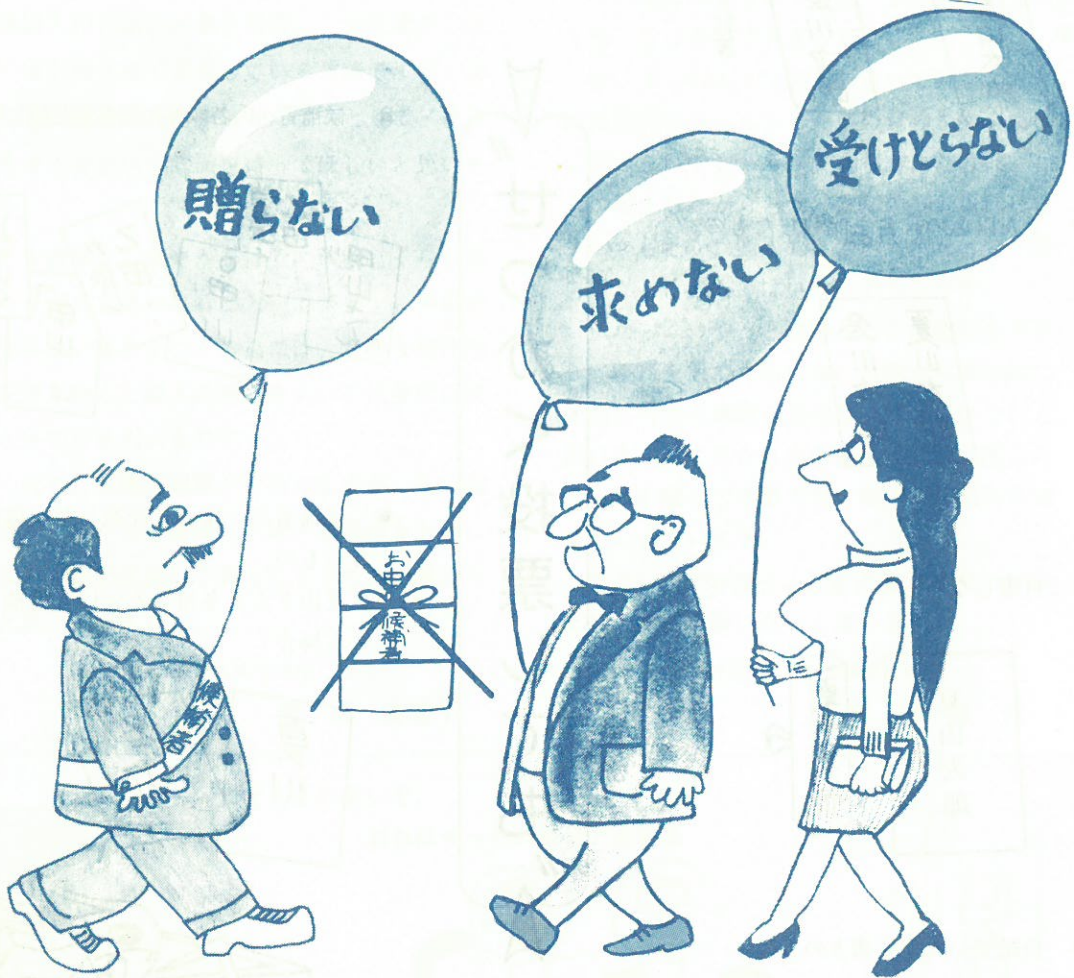


きんもくせい

〈山口市の花木〉



もしもし 山口のみなさま
守ってください 三ない運動
あなたも わたしも 誠実に
明るい選挙で 国づくり

もしもし 市民のみなさま
老いも 若きも 真剣に
自分の信念 一票に
託して 明るい街づくり
(大内 美和サト子)

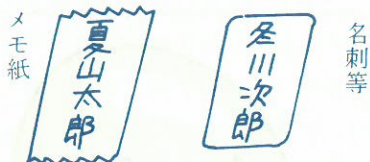
編集・発行

山口市明るい選挙を進める会
山口市婦人行動対策会議

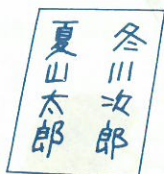
せっかく投票された貴重な一票も、次のような投票は無効となります

大切な一票、もったいないですね

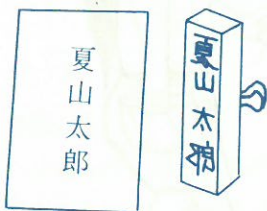
- ◆ 所定の用紙を用いないもの。



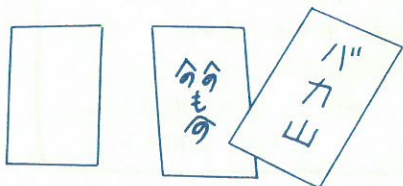
- ◆ 2人以上の氏名を記載したもの。



- ◆ 自書しないもの（スタンプなど）

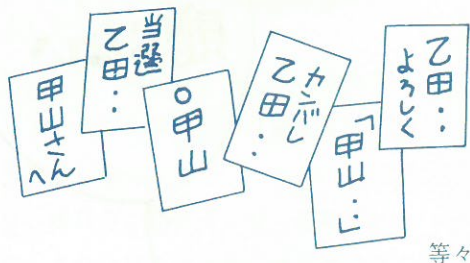


- ◆ 白紙やいたずら書きのもの。

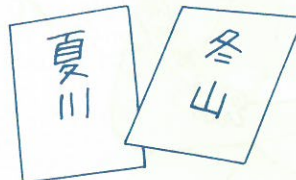


- ◆ 候補者でない者、被選挙権のない者、公職の候補者になれない者の氏名を記載したもの。

- ◆ 候補者の氏名以外の他事を記載したもの。



- ◆ 候補者の「誰」を記載したか確認できないもの。
(夏山さんと冬川さんという候補者がいる場合)



“ せっかく投票しても ”



私 と 選 挙

— 原始女性は太陽であった — 平塚らいてふのねがいにもかかわらず、「政^{せい}りごとは男」のものとして政治は男性中心で行われました。

「天の半分は女性が支えている」とは、国連婦人の10年の活動を契機に、女性達がしばしば引用させてもらっている言葉ですが、女性も、独自の人格を持った個人として、社会を支えるという意識を持ってほしいと思います。

女性は、しなやかな目で、政治とくらしのつながりを見つめることができます。平和で住みよい社会をつくる為には、豊かな母性的愛情を持った婦人の意見を大いに社会に反映させて行きたいものです。

近く、参議院選挙が行われますが、永い間かかってやっと獲得した婦人参政権を大事に、私の意見を代表して貰えるような人を選ぼうと思っています。

山口市婦人大学講座二期生

兼 重 美智子

五月の山口市婦人大学公開講座で、山大の古賀先生から — 婦人と政治 — についてお話をききました。昭和20年婦人参政権が与えられる迄には、市川房枝女史等多くの先人達の苦闘の歴史があったことを知り、あらためて今私達に与えられている一票の歴史的重みを感じることができました。

今、多くの人々は何もしないで20才になれば自動的に与えられる一票の意義を知らないのではないのでしょうか。選挙時になれば、知人に頼まれたからとか、就職の時お世話になったからとか、個人的な義理人情だけで一票を軽々しく扱ってはいないのでしょうか。

私たちは、やっと獲得したこの権利を生かし、義務を果たすためには、日頃から積極的に政治に対する意識を高めなければいけないと思います。これからは市議会の傍聴、国会のテレビ中継など本気で見て政治の仕組みを知りたいと思います。

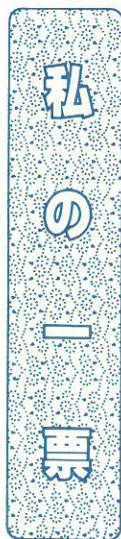
出たい人ではなく、出したい人を見つけるたしかな目を養いたいと思います。

山口市婦人大学講座二期生

原 田 雅 代

まどわされないぞ、

おれはぜったい自分できめる



私たちと選挙

私たちと政治

私たちは、毎日の暮らしの中で、さまざまな願いや希望を持っています。しかし、それらの願いの中には個人の努力では解決できない問題もたくさんあります。例えば、上・下水道、交通、教育、治安、保健衛生、災害対策など、日常の生活にかかせないもののほとんどが個人の力では解決できません。そこで、私たちの暮らし全体にかかわる問題について、全体の生活を向上させるために最も適当な人を代表として選び出し、この人たちに全体の意志決定を信託するのです。



主役は私たち

私たちが選んだ、私たちの代表者は、私たちに代って私たちのために政治を行うのであって、代表者が自分又は一部の人の利益のために、政治を行うわけではありません。

政治の主役は私たち国民なのです。このことは憲法で保証された国民の権利なのです。

私たちの暮らしの願いを実現させてくれるのが政治ですが、それが期待どおりにいくかどうかは、私たちが政治の仕組み、働きをよく知り、常に関心を持つことです。そして、政治に参加できる最大のチャンスである選挙には、積極的に参加して私たちの代表者としてふさわしい人を選ぶことにしましょう。

— 農夫とヒバリ —

ヒバリのひながすっかり育った頃、畑の持主がやって来て、

「おお、よく実った。明日はみんなに頼んで麦刈りをして貰おう」と云いました。それを聞いたひな鳥は大変心配しました。する



と親ヒバリは「大丈夫、大丈夫、他人をあてにしているうちはまだ刈りはしないよ」となだめました。

また、幾日かして持主がやってきて、

「や、これは実りすぎた。明日は自分で刈らなくちゃ」これを聞いた親ヒバリは、

「サア、今度は、本当ですよ」とサッサと引越しました。 (インソップ物語)

「誰かに頼んで」「誰れかがやってくれるだろう」などと云っているうちは、本当によい社会にはなりません。

良い政治は、みんなが自分で一票を投ずるところから始まります。

〈あ と が き〉

きんもくせい、第3号をお届けします。山口市婦人行動対策会議の私達が広報係を担当しています。一生懸命頑張っていますのでぜひご意見、ご投稿心からお待ちしています。

(あて先) 山口市選挙管理委員会内

明るい選挙を進める会広報係